リハビリテーション技術科の現状と今後

田　中　美能留

キーワード：地域リハビリテーション；高度医学的リハビリテーション；院内外各種健康増進活動
（雲南市立病院医学雑誌　2019; 16(1): 80-82）

リハビリテーション科の変遷

現在のリハビリテーション技術科は、昭和46年４月、物理療法室として開設された。当初、運営は整形外科医の監督のもと、外来看護婦、専任技士により光線療法、温熱療法等の簡単な物理療法が行われていた。昭和53年には、94㎡の占有スペースが出来、名称も物理療法室から機能回復訓練室と改められた。また、各種動作訓練のための器具も備えられ、本格的な機能訓練が院内にて対応できるようになった。昭和63年４月、専門的なリハビリテーションを一層進める目的で、理学療法士が１名採用された。昭和63年当時は、圏域内の理学療法士は当院の１名のみであったため、病院内外からの依頼による地域リハビリテーションスタッフに対する学習会、患者・家族に対するリハビリテーション指導、病院スタッフに対する技術指導等、多忙を極めた。その後、外来・入院患者の増加、および、患者の高齢化などによるリハビリテーション対象患者の増加、施設基準の更新に対応するために、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を徐々に増員し、合わせて施設の拡充を図ってきた。2019年４月現在、理学療法士22名、作業療法士12名、言語聴覚士３名のスタッフにより一般診療、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、訪問リハビリテーションに対応している（**図１**）。また、院内外で行われる各種健康増進活動にも積極的に参加している。

回復期リハビリテーション病棟

当病棟は平成14年に開設した。開設当初は理学療法士２名、作業療法士１名の専従者が病棟リハを担当していたが、平成20年の診療報酬改定により、入棟患者１名につき１日平均２単位以上のリハビリテーションの提供が義務付けられ、また、３次医療病院からのリハビリ目的転院患者の増加したことを受け、平成28年６月から365日リハビリを開始した。現在は理学療法士５名、作業療法士４名の専従者によってリハビリテーションを提供している。昨年完成した新病棟内にリハビリ室を設置し、病棟内でリハビリが出来るようになった。これによって、他の病棟スタッフと連携した生活リハビリの提供が可能になった。

地域包括ケア病棟

当病棟は平成27年に開設した。当病棟もリハビリテーションを行う入棟患者１名につき１日平均２単位以上のリハビリテーションの提供が義務付けられており、現在は理学療法士３名、作業療法士２名の専従者を配置している。近年当院は圏域内の高齢化により肺炎や心不全などで入院する高齢患者が増えている。高齢患者の多くは廃用によりリハビリテーションを必要とし、また退院調整に時間を要するため当該病棟を経て退院することが理想と考えている。しかし、現状の人員配置ではすべての当該病棟適応患者を受け入れ、休日を含めた月平均１日２単位の提供出来る状況には至っていない。今後、さらに他職種による自立支援を

雲南市立病院医療技術部リハビリテーション技術科
著者連絡先：田中美能留　雲南市立病院医療技術部リハビリテーション技術科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: u-riha@hotaru.yoitoko.jp

進めることにより早期退院、入棟期間の短縮を図る必要があると考える。

訪問リハビリテーション

平成９年より訪問看護ステーションが開設され、同時に訪問看護ステーションから訪問リハビリテーションを行っている。以前は、理学療法士２名、作業療法士１名の専従者で行っていたが、昨年からは地域のニーズを受け、言語聴覚士の訪問も開始した。訪問エリアは雲南市内だが、人口密度が低いため渋滞はないものの、車での移動に片道30分以上かかることも多く、療法士一人が１日５～６件程度しか訪問できない。しかし近年、高齢化による対象者の増加やALSなど難病患者の在宅医療の支援など訪問リハビリのニーズは増え続けている。現在、圏域内外の訪問リハビリテーション事業所と連携を図り増え続ける訪問依頼への対応を行っている。

地域包括ケアシステムおよび地域健康増進活動

国の地域包括ケアシステムの推進に伴い、雲南市でも平成28年度より地域ケア会議が始まった。当科は、地域ケア会議開始前から地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域包括支援センター、圏域内の療法士などと協議を重ねてきた。現在、地域ケア会議への出席、住民主体で運営される介護予防、健康運動グループ「通いの場」の支援などの取り組みを行っている。

地域健康増進活動としては、院内で行われる母親教室において、妊婦体操指導、加茂B&G海洋センターラソンテでのプールリハビリテーション教室への指導者派遣、雲南市立病院出前講座と題して行っている地域健康教室への講師派遣などを行っている。

おわりに

今後、スタッフの技術のさらなる向上を図り、地域に根ざした病院として地域リハビリテーションの実践と中核病院としての高度医学的リハビリテーションの双方を進めていく考えである。

図１　リハビリテーション技術科のスタッフ

Present status and future perspective of the department of rehabilitation technology in Unnan City Hospital.

Minoru Tanaka

Department of rehabilitation technology, Unnan City Hospital
Correspondence: Minoru Tanaka, Department of rehabilitation technology, Unnan City Hospital〔96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN〕
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: u-riha@hotaru.yoitoko.jp